

# 平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めています。

平成25年4月16日、文部科学省において学校法人金沢工業大学から以下の4名が表彰されました。この受賞は本校校法人において初めてのことであり、その内の3名が本校の教員です。本校教員の地道な研究およびその成果普及を目的とした教育活動はこのように外部からも高く評価され、本校は科学技術分野の教育・研究において名実ともにトップランナーであることが証明されました。



受賞内容は以下のとおりです。

【テーマ】地域における科学技術コミュニケーションの普及啓発

【受賞者】

- 竹俣一也 高専・グローバル情報工学科 教授
- 中村純生 大学・情報フロンティア学部 准教授
- 南出章幸 高専・電気電子工学科 教授
- 小高有普 高専・グローバル情報工学科 准教授

【業績内容】

市民の科学を学びたいという気持ちに応える機会に地域格差があってはならない。科学への興味はいつになっても絶えることがないものの、地方において学ぶ機会そのものが十分であるとはいえない。高等教育機関はこの要望に応える必要がある。

本活動は、多様な年齢層に対する生涯学習講座の実践を通して高等教育機関の地域貢献に対するあり方を常時示し続けている。簡易型の3D上映システムを開発し、国立天文台4D2Uプロジェクト・コンテンツの解説施設を公開した。また、地元企業（白山市、エスディエス株式会社）の協力を得て移動式の3D上映システムを共同開発し、日本最大級のサイエンスコミュニケーションイベントである科学技術振興機構サイエンスアゴラ2010・2011・2012において発表した。さらにそのシステムを用いて訪問型科学講座を小中学校ばかりでなく病院、高齢者施設、肢体不自由者施設などで実施し、自力で外部施設を訪問できない方々にも宇宙科学の夢を届けている。また、高校生を対象としたユニバーサルデザイン講座を開設し、その教育活動を通してものづくりに必要な相手を思いやる設計思想を涵養している。

以上により本活動は、地方における科学技術の理解増進、さらに生涯科学学習の推進、高等教育機関における科学を通じた地域連携促進に寄与している。

## 課題発見フェーズ

- 家庭 科学を学ぶきっかけがほしい
- 学校 地域をテーマにした学習を進めたい
- 自治体 地域全体の理科力を上げたい
- 生徒 理系進学への期待



## サイエンス・コミュニケーション・プロジェクト

<p>モバイル型 4D2U/SORa システムによる宇宙紀行</p>	<p>高齢者向け科学実験講座</p>	<p>モバイル型 3D 投影システム SORa シリーズ</p>
<p>コミュニティバス・ペーパー模型による科学教室</p>	<p>風に向かって走る自動車模型による自然エネルギー教育</p>	<p>気温データを用いて環境教育プログラム</p>
<p>海外駐在家族を対象とした科学講座</p>	<p>高校生インターンシッププログラム</p>	<p>中学生向け自然エネルギー教育用模型</p>
<p>電子黒板スタンド Monitor シリーズ</p>		



## 課題解決フェーズ

- 効果** 地域における科学系の生涯学習基盤
  - 1 i. 広範囲の世代に対する科学教育プログラムの充実
  - ii. P T A との科学教室運営体制の充実
  - iii. 工学系大学生の問題発見解決型授業への地域における理解と協力体制の充実
- 効果** 高校生に対するものづくり系の
  - 2 キャリア教育支援体制の充実
- 効果** 海外駐在家庭における科学技術
  - 3 コミュニケーションの促進